2009
No.10
Nov

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 FAX03-3894-0282 http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

新型インフルエンザの大流行で、医療機関の皆様におかれましては、患者さんへの対応に大変お忙しいことと存じます。当東医療センターでも、休日、夜間の発熱患者さんの受診数は、過去に経験したことのない程の多数になっております。特に小児科ではインフルエンザによる肺炎や、痙攣の患者さんも多く入院していらっしゃいます。当東医療センターでは、感染対策室が中心となり、医師、看護師、薬剤師、事務員と全職員をあげて新型インフルエンザに対応をしております。

今回から、各科の専門外来についてシリーズでご紹介させていただくことになりました。本号では、耳鼻咽喉科、小児科、歯科口腔外科、救急医療科を取り上げました。また、最終ページは日暮里クリニックのページとなっております。

ご一読いただければ幸いに存じます。

荒川区医師会との懇親会開かれる

去る７月２２日、東医療センターにおいて、荒川区医師会との病診連携の緊密化、地域医療の一層の充実を目的に荒川区医師会との懇親会が開催されました。ご多忙の中、理事の先生方、医師会員の先生方が多数ご参加下さり、東医療センターからは若手医師や研修医も参加して楽しい大盛況の会となりました。

ご多忙の中ご出席いただきました荒川区医師会長の冨田崇敏先生よりご挨拶をいただきました。



穂高涸沢 医療情報映像室 住友撮影

◇病診連携を如何に進めるか◇

社団法人　荒川区医師会
会長　冨田　崇敏



東京女子医科大学東医療センターにおかれましては、日頃より病診・病病連携並びに各種研修会、フォーラム等で大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

去る７月２２日に連携強化の目的で、私共荒川区医師会員との懇親会を開催させて頂きました。ご尽力いただいた、大塚院長、小川・和田両副院長に厚くお礼申し上げます。当日は、多くの診療科の先生方と活発な意見交換が成され、示唆に富む御助言を数多く賜りました。地域医療を実践する私共、かかりつけ医にとって大変参考となりました。又、顔の見える連携という意味でも、貴重な時間を過ごさせて頂きました。今後は、如何にして医療連携を構築して行くか、各論的手法を模索して行くことが重要と考えます。

衆知の如く、２００７年４月がん対策基本法が施行され、がん対策推進基本計画が策定されました。国民病としてのがん対策においても、医療連携でのツールとして、クリニカルパスを如何に運用していくか、在宅医療を担う私共への逆紹介を含む双方向の連携を如何に実践すべきか等々問題は山積しております。

元より医療連携の本来の目的は、患者に少しでも安心で良質な医療を提供し、専門医もかかりつけ医も全人的にサポートするところにあると考えます。全人的と一口に言いましても、これはかなり難題であり、心のケアは勿論、各種社会資源、福祉の活用即ち、介護保険利用、自立支援法適用、医療費助成、地域福祉権利擁護事業、成年後見制度活用等々数え上げれば切がありません。最終的には、医療全般を通じ、患者のＱＯＬの向上にあり、単なる生活の質ではなくて、人生又は命の質に帰着するものと考えます。

今後も更に、区内中核病院である貴院との連携を深め、地域医療体制の整備に一層尽力して参りたいと考えております。最後に東京女子医科大学東医療センターの先生方の更なる御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

口腔咽頭のＳＴＩ



耳鼻咽喉科 准教授　余田 敬子

性感染症　sexual transmitted infection;ＳＴＩは口腔・咽頭からも感染します。性行動が多様化し、オーラルサービスを行う性風俗店が増えたことから、咽頭を介した性感染症の増加が懸念されています。当科でも、インターネットなどで性感染症の咽頭感染に関する情報をみて、自ら口腔・咽頭の性感染症を心配して受診する人が増えています。

口腔咽頭に病変を生じる性感染症には、梅毒、単純ヘルペスウイルス、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus:ＨＩＶ）感染症があります。梅毒、ＨＩＶ感染症では、皮膚や性器には異常がなく口腔咽頭の病変で発症し、診断の契機となる場合が少なくありません。梅毒は、減少し続けていた患者数が２００４年から増加に転じ、咽頭梅毒患者も増えることが推察されます。ＨＩＶも日本ではおもに２０～４０歳代の男性同性愛者のなかで感染者が増え続けています。

性感染症のうち最も患者数の多いクラミジア感染症と、次に多い淋菌感染症も咽頭に生じます。淋菌、クラミジアの咽頭感染は無症候性の場合が多く感染者本人が気づきにくいため、感染源として問題視されています。淋菌とクラミジアは、性器でも無症候性に感染するケースが増えており、未治療のまま経過すると不妊の原因になります。

厚労省性感染症研究班による性感染症罹患率の推計値では、性感染症患者は年間６５万人（男性３０万人、女性３５万人）、全患者の半数以上が１０代後半から２０代前半の男女と推定されております。性感染症はもはや特定の人のみの疾患ではなく、若年世代を中心に誰もが感染しうる大きな健康問題となっております。

当科では、様々な咽頭の性感染症の診断、治療を行っております。診察は完全予約制で、地域連携室にてＦＡＸによる診療申し込みを受付けております。

患者様のご紹介をお待ちしております。

地域連携室直通　ＦＡＸ ０３－３８９３－０７７２



小児アレルギー疾患



小児科 講師　大谷　智子

子どもは大人と異なり成長するため、小児アレルギー疾患も年齢により「アレルギーマーチ」と言われ、疾患に特徴があるとされています。

生後数ヶ月から見られるものに、アトピー性皮膚炎や消化管アレルギーなどの食物アレルギーがあります。アトピー性皮膚炎は乾燥や掻破が悪化因子であることから、冬は特にスキンケアが重要になります。乳児期のアトピー性皮膚炎は食物アレルギーの原因となることも多く、問診をもとに血液検査や皮膚テストなどを参考に原因抗原を調べ、適切な除去食指導を行うことが治療に繋がるとされています。しかしながら、成長期にある乳児の除去食は慎重にすべきで、安易な除去は栄養障害を招くこともあり適切な代替食を紹介し家族のＱＯＬも含め栄養指導を行う必要があります。

１歳を過ぎる頃になると、ゼーゼーする子が増えてきます。呼気性の喘鳴を認める場合を乳児喘息の広義の診断とされています。ウイルス感染などにより誘発されることもありますが、最近は乳児喘息の病態の多様性から、積極的な治療の早期介入によりロイコトリエン受容体拮抗薬が汎用されるようになっています。また、ステロイド吸入薬の剤型も増え乳児への使用も拡大されたため、喘息児の治療成績が改善し入院や救急外来受診例は激減してきました。一方、喫煙、集団保育の低年齢化やペット飼育などにより初発症例は増加しています。

小児のアレルギー性鼻炎や花粉症は５～６歳頃より発症してきます。花粉症例の中には、花粉抗原と交差抗原性の高い果物、野菜アレルギーを引き起こす口腔アレルギー症候群（ＯＡＳ）があります。また、小麦や甲殻類などの食物抗原と運動によって生じる食物依存性運動誘発アナフィラキシーなどの特殊なアレルギー反応が年長児で認められるようになってきました。これからの疾患は社会的な認識も少ないために注意が必要です。

食物アレルギーの除去食解除のための経口誘発試験から難治性喘息児の指導など当科アレルギー外来に御紹介下さい。

口腔ケアについて

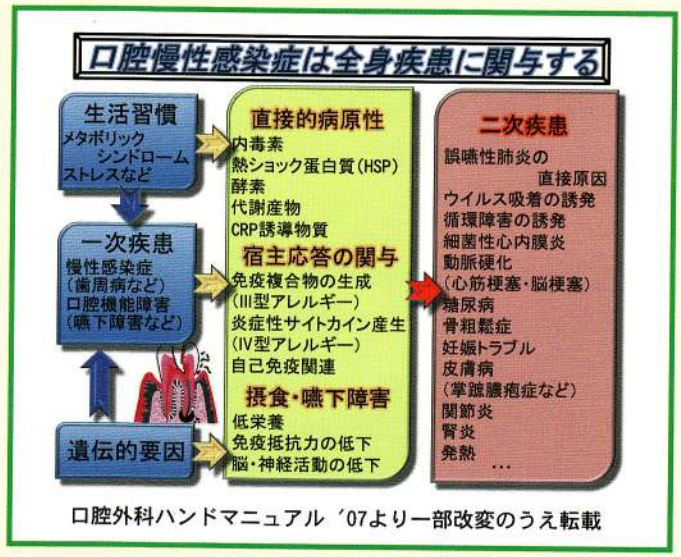


歯科口腔外科 助教　矢野　尚

「口腔ケア」は１９９９年のLancet誌での「高齢者において計画的口腔ケアにより誤嚥性肺炎が４０％予防できる」とした米山らによる論文掲載以来、単に歯石除去やブラッシング指導といった口腔疾患の予防を目的とした狭義の口腔ケアだけでなく誤嚥性肺炎の予防等の全身疾患との関連性を含めた広義の口腔ケアが重要視されるようになりました。

口腔ケアが必要な例として、寝たきり高齢者・脳血管障害・ＩＣＵ入床者・周術期患者（誤嚥性肺炎）、ＡＤＬ低下者（摂食不良、誤嚥性肺炎）、骨髄移植患者・血液疾患（う歯、口内炎、歯周病）、糖尿病（口腔感染症、敗血症）、先天性心疾患・心臓弁膜症（口腔内細菌性心内膜炎）、免疫抑制患者（口腔感染症・敗血症・歯周病）、がん患者（口内炎、口腔感染症、敗血症）、全身麻酔予定患者（気管内挿管時の歯牙迷入、補綴物の脱落）、呼吸管理患者（人工呼吸器関連肺炎）、骨粗鬆症（顎骨壊死）、妊婦（妊娠トラブル）、小児患者（摂食不良、誤嚥性肺炎）、関節炎・腎炎・皮膚病等が挙げられます。（括弧内は主な予防疾患）口腔ケアの内容としては専門的口腔ケア（ＰＯＨＣ）を含め、①歯・歯周組織の清掃　②歯垢・歯石の除去　③舌・口腔粘膜の清拭保清　④口腔乾燥への対処　⑤義歯の着脱、管理⑥摂食・嚥下訓練、指導等が挙げられ、更に歯科医師や歯科衛生士による専門的検査に基づいたプランの立案とプラークバイオフィルムや歯石除去等のＰＯＨＣにより有意に効果が向上することが明らかになっています。

必要な口腔ケアは各個人によって異なり、自立者はＰＯＨＣを行った上でセルフケアの向上、要介助者は介助によるケアの継続が必要です。また近年では口腔インプラント等高度な歯科治療を受けている患者さんが増加しており、必要な口腔ケアは高度化していることから今後更に医科・歯科・看護・介護の連携が必要と思われます。今後ともご指導ご協力の程宜しくお願いいたします。



口腔外科ハンドマニュアル ‘07より一部改変のうえ転載

CPAに対するPCPSを用いた蘇生術と蘇生後の脳低温療法について



救命救急センター
救急医療科　助教　小林 尊志

東京女子医科大学東医療センターに救命救急センターがオープンして今年で１２年目になりました。

救命救急センターに搬送される症例は、消防庁の現場トリアージにより、３次救急症例（最重症）が大部分を占めています。症例は多岐に渡り、外因性疾患では多発外傷・急性中毒・熱傷・特殊環境障害が多く、内因性疾患（脳神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、代謝内分泌系、泌尿生殖器系など）では殆ど何らかの原因による意識障害を呈しており、初療では迅速な診断と治療が必要です。現在年間約１３００件の HotLineを受け入れており、その内約４００例がＣＰＡ（心肺停止）症例です。

ＣＰＡに対する心肺蘇生術にはＢＬＳ、ＡＣＬＳ等がありますが、救命センターならではの積極的治療にＰＣＰＳ(経皮的人工心肺装置)があります。当センターにおいてもＰＣＰＳによる積極治療を行い、蘇生率の向上を目指しています。また、心肺停止・蘇生後脳症に対する脳低温療法にも取り組んでいます。蘇生後脳症に対する脳低温療法はＣｏＳＴＲ２００５においても有効性が認められている治療法です。蘇生後に低体温装置を用いて深部体温３４℃４８時間を維持し、脳保護を行うものです。２００８年７月～２００９年６月までの１年間に蘇生後４７症例に脳低温療法を施行し、予後良好（社会復帰）は１１症例でした。予後良好症例はすべて早期に心拍再開しており、疾患としては心室細動による心肺停止が７例でした。このことは心肺停止直後のＣＰＲ、ＡＥＤの重要性を示しています。我々救命スタッフも地域医師会等と協力し、地域住民に対するＢＬＳ普及に努めたいと考えております。

今後もよろしくお願いいたします。


ＰＣＰＳ装置


低体温装置

日暮里クリニックのご案内



循環器専門外来
心臓血管外科 教授　中野 清治

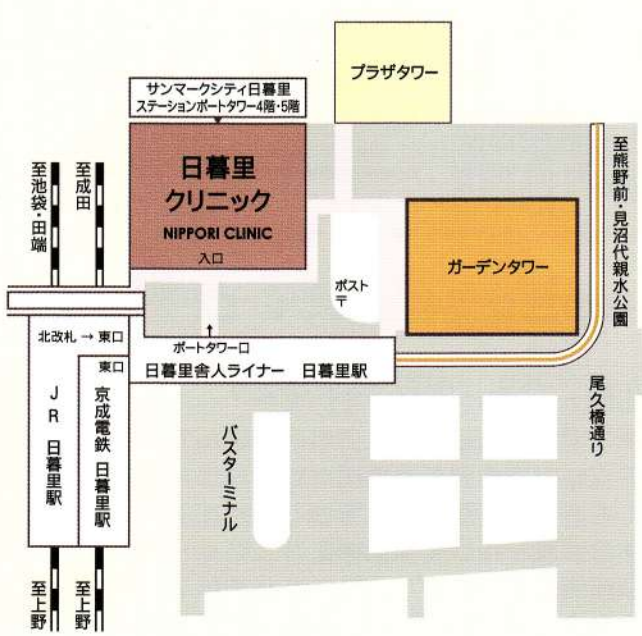
迅速な診断、高度な治療を行うために日暮里クリニックに専門外来を設けました。直ちに治療が必要なのか、経過観察でよいのかを見極めるための窓口で、その分野で経験豊富な医師が担当致します。方針が決まり次第かかりつけの先生方と連携し治療を行っていきたいと思っております。また、セカンドオピニオンにも対応致します。

（１）心臓弁膜症外来
①心雑音がある、あるいは心臓の弁が悪い
②手術の時期に迷う、手術を勧められて迷っている
③手術の方法について詳しい説明を受けたい
以上の患者さんを対象とし、来院日に即座に心エコーを行い的確な判断を行います。

（２）血管外来
①血管が拡大している
②動脈瘤がある
③ステントグラフトやカテーテル治療、薬物治療などについて詳しい説明を受けたい
④歩くと足が痛くなる、足が冷たい
⑤下肢の静脈がもりあがる
対象疾患としては動脈瘤（胸部、腹部）、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などです

（３）狭心症外来
①胸が締め付けられたり痛みがある
②心電図異常を指摘された
③狭心症あるいは心筋梗塞といわれた
④カテーテル治療や冠動脈バイパス手術を勧められた
以上の患者さんが対象で、内科と協力し最適な治療にたずさわります。また、放射線科との速やかな連携により高性能ＭＤＣＴによる冠動脈評価が可能です。

◇外来日　血　管　外　来　月曜日（午前）
　　心臓弁膜症外来　木曜日（午前）
　　狭　心　症　外　来　金曜日（午前）



□JR日暮里駅からの道順
日暮里駅北口改札を出てから、東（右方向）に出てください。
東口に出たら左方向に携帯電話販売店がありますので左脇の入口よりお入りいただき、エレベーターを利用して４階までお越しください。

□日暮里・舎人ライナーからの道順
ＪＲ日暮里駅方向の改札を出てからすぐ右側に階段とエレベーターがありますので２階まで降りてください。
２階に降りましたら、左側にステーションポートタワーロの連絡橋があります。渡っていただくとビルの３階に出ますので階段、エレベーターをご利用いただき４階にお越しください。

● 受付時間　平　日　8:20～11:00
　　12:00～15:00
　　土曜日　8:20～11:00

● 予約電話受付時間
平　日　8:20～17:00
土曜日　8:20～12:30
※予約専用電話にお願い致します

代表電話
03-3805-7771
※予約専用電話
03-3805-7772
※5階美容医療専用
03-3805-7773

● 休診日
日曜日・第3土曜日・祭日・振替休日、
本学創立記念日12月5日（休日の場合は翌日）
年末年始（12月30日～1月4日）

お知らせ

☆北区医師会学術講演会
　日時：平成２２年１月２０日(水)午後７時より
　場所：北区医師会館
　　東京女子医科大学東医療センターの紹介をさせていただきたいと思います。
☆第１５回「城東地区医療連携フォーラム」
　日時：平成２２年２月６日(土)午後３時より（予定）
　場所：ホテルラングウッド 荒川区東日暮里5-50-5 TEL03-3803-1234
☆お問い合わせ先：地域連携室　内線　６１５１又は
　　業務管理課　内線　４４３３

編集後記

秋色いよいよ濃く空気もスッキリと好季節となりました。しかし、今年はそんな美しい季節をゆっくりと満喫することがでない日々を送っているのではないでしょうか。

皆様には、新型インフルエンザの対応に日夜奮闘している状況だとおもいます。医療連携を強めながらみんなで大事を乗り切っていきたいと思います。

（地域連携室　佐藤）